



学術研究院
教育学域
特別支援教育講座
助教
博士（学校教育学）

自己紹介

元々は理学部で数学を学んでいました。4年生の頃に、ボランティア掲示板に掲載されていた難聴学生支援講座を偶然受講することになり、その後、難聴児支援ボランティアに携わったことをきっかけに、特別支援教育の道に進みました（特別支援教育特別専攻科）。学生の頃に、聴覚障害学生支援（ノートテイク活動）に携わることになり、2大学で合計6年間活動を行いました。ノートテイク活動を始めてから難聴学生と話をする中で、高校までの支援や手話の学習に関心を持ちました。ろう・難聴者にとって少しでも役に立つ仕事をしたいと思っています。

*全国統一要約筆記者認定試験 合格

*手話通訳者全国統一試験 合格

専門分野・研究テーマ

聴覚障害教育と障害学生支援を専門とし、以下のテーマに取り組んでいます。

①聴覚障害児者への支援（環境調整）

小学校、中学校、高校で聴覚障害のある児童生徒が学ぶ場合、音声による口頭説明を中心に授業が進行されるため、授業情報を十分に取得することが困難になります。そのため、そのような学習環境で必要となる支援（環境調整）のあり方について、当事者のニーズ把握や情報保障を中心に研究を行っています。

②聴覚障害学生支援を担う学生の養成

大学等の高等教育機関に音声情報の取得に困難な聴覚障害学生や発達障害学生（聴覚障害学生等）が入学した場合、音声情報を文字情報として学生に伝える「ノートテイク」が一般的に行われています。しかし、各大学に必ずしもノートテイク養成の専門家がいないわけではないこと、各大学のみのリソースで養成し続けることが困難となっています。そのため、このノートテイクを担うノートテイク学生を持続的に養成するための方法として、大学間連携による共同養成等について関心を持っています。

学生へのメッセージ

聴覚障害のある児童生徒の教育では、それぞれの子どもの母語（音声言語か手話言語か）やコミュニケーション手段、教育的ニーズを把握した上で、子どもと向き合いながら、最善の教育とは何かを考え続けることが重要です。特別支援学校教員免許（聴覚障害教育領域）を取得して、どのような教員になりたいかを考えましょう。研究室では、それを実現するために必要な内容について、一緒に学ぶことができます。皆さんの可能性をさらに広げていきましょう。